CLA Award 2026

最　優　秀　賞


①


②


③


④


⑤

作品概要

作品名――百道中央公園 インクルーシブな子ども広場整備
所在地――福岡市早良区百道浜三丁目地内
発注――福岡市住宅都市局公園部整備課（現：福岡市住宅都市みどり局みどり推進部みどり整備課）
設計――株式会社アーバンデザインコンサルタント、カツノ風景デザイン室
設計協力――株式会社コトブキ
設計期間――2022年7月～2023年3月
施工期間――2023年12月～2025年2月
規模――約15,000m^2
主要施設――インクルーシブな子ども広場（遊具、築山改修、休憩施設、園路改修等）

作品評

本作品は、福岡市が進めるインクルーシブな子ども広場の実証実験の場として整備された公園のランドスケープデザインである。

インクルーシブとは全てを包み込むという意味であり、その遊び場のあるべき姿として、国の資料では、「誰もが楽しめる」、「安全で居心地が良い」、「誰もが利用しやすい」、「地域とともにつくり育てる」、「柔軟に管理され進歩していく」の5つの配慮事項が示されている。

この広場整備において、応募者は地元住民や障害者とともにきめ細かな現地調査を行い、そこで得られた意見や分析結果を踏まえて、配慮事項の要件に沿った「遊びの要素の多様化」、「遊び場の細分化」、「様々な障害や特性に合わせた設え」の具体的な改善案を示している。

また、設計レベルの対応においても、低勾配の滑り台の設置、車椅子で登れる築山の改造、園路への展示ブロックの設置等各施設について、思いやりのあるデザインが施されている。

インクルーシブな公園づくりは全国的に拡大しているが、この作品はその先駆的事例の一つとして評価されるものであり、CLA賞の求める独創性や新しい分野へのチャレンジ性等の要件を高い水準で満たすものとして、本年度の最優秀賞に選出した。



⑥


⑦


⑧


⑨

①築山頂上から見た遊具広場　②車いすも使える複合遊具　③既存築山を残しつつ、遊びの要素を追加する
④子どもの飛び出し防止の役割を兼ねたボーダーベンチ　⑤視覚障がい者が公園を散策するための点字ブロック
⑥基本設計平面図　⑦ワークショップでの現地確認　⑧ワークショップで障害のある子どもの保護者から話を聞く
⑨障がい児やその保護者が安心してワークショップに参加できるよう設けた見守りスペース

百道中央公園
インクルーシブな子ども広場整備

株式会社アーバンデザインコンサルタント
大杉哲哉・棚町修一・小峯裕・福岡李奈
首藤紗奈・堤八恵子

本作品は、福岡市のインクルーシブな子ども広場整備指針の策定に携わり、インクルーシブな子ども広場第１号である百道中央公園の基本設計と遊具広場部の実施設計を行ったものである。

設計では、地元住民や障がい者、障がい児の保護者等を集めてワークショップを行い、「誰もが お互いを理解し 安心して笑顔で 自分らしく遊ぶことができる場所」を目指した。

障がい理解を促進する設計プロセス

計画にあたり、障がい者や障がい児の保護者・地域住民の参加によるワークショップ（6回）を開催した。障がい者や障がい児の保護者から遊びに関する意見や配慮事項等を伺い、障がい理解を促進するとともに計画の参考とした。

整備のポイント1【遊びの要素の多様化】

あらゆる子どもが楽しめ、子どもの心身の発達に寄与するため、身体的な遊びだけでなく、五感を刺激する遊びや社会的な遊び等、多様な遊びの要素を盛り込んで設計した。

整備のポイント２【遊び場の細分化】

子どもを公園で遊ばせることについて「体幹が弱い子が活発な子と一緒に遊ぶこと（衝突等の事故の発生）が不安」「障がい児が周囲に迷惑をかけることが心配」等の心理的ハードルがあると保護者から意見が挙げられた。そこで大人数で遊ぶことが出来る場所だけでなく、同じ設えで一人や少人数で遊ぶことが出来る多様な空間を整備した。

整備のポイント３【様々な障がいや特性に合わせた設え】

各障がいや特性により公園が使いづらいと感じる場面があることが分かった。そこでワークショップで出された様々な使いづらさを緩和・解決するハード整備に取り組んだ。

最後に

本作品の考え方はインクルーシブな子ども広場の整備に限ったものではなく、一般的な公園の計画・設計においても前提となると強く感じた。様々な利用者が安心して快適に過ごすことができるインクルーシブな空間づくりとともに、障がい者を含めた他者に対する配慮が特別ではなく社会に広がり浸透して、当たり前の社会となることを願う。